

# 専念寺通信

## 専念寺通信

一月号 (NO. 77)

あけましておめでとうございます。みなさまお健やかに新しい年をお迎えることと存じます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

### ☆一心山 専念寺

新しき年のはじめにあたり、法然上人の言葉のなかから、次の一文を紹介させていただきます。

一心に専ら弥陀の名号を念じ、行住坐臥に時節の久遠を問はず、念々に捨てざるもの、これを正定の業と名く。彼の仏の願に順ずるが故に。

法然上人は何を言いたかったのでしょうか。上人が説いているのは、南無阿弥陀仏と唱えるためには場所も身体の状態も関係ない、ただただ名号を一心に唱えれば良いのだ、ということです。行住坐臥（ぎょうじゅうざが）に関係なく、つまり歩いていてもじっとしていても、座っていても臥していても、更に、時間の長い短いにも関係なく、時々刻々に念仏を唱える生活を心がけ、これを捨てないようにする行、これこそが仏が選定して本願行とされた正定（しょうじょう）の業（ごう）だとしたのです。煩惱があればそのままに、もしも心が乱れていてもそのままに、ただ南無阿弥陀仏と唱えればよい、と言っています。専ら（もっぱら）一心（いっしん）に唱えること。私どもの寺、一心山・専念寺の名は、この法然上人の言葉に由来しています。この新年号では初めて写真を掲載いたしました。石碑に刻まれた「専念寺」の文字は、先代住職の筆によるものです。

☆小さなお知らせ：山門の2本のいちょうの木の枝降ろしをしました。3年に一度くらい植木屋さんをお願いしています。枝降ろしの日までにたくさんのお銀杏が取れました。天気の良い日に本堂の階段で乾かし、すっかりきれいにして数をかぞえたところ、なんと約2000粒もありました。まさに自然の恵みです。数粒ずつ袋にいれ、「専念寺」の札と散華と一緒にして、12月末からおいでくださった檀家さまに差し上げています。新年からも引き続きご用意しております。どうぞ、この「通信」とあわせてお持ちください。

☆もうひとつ小さなお知らせ：庫裏の廊下突き当たりに「国境なき医師団」の募金箱を置きました。赤十字の箱と並べてあります。庫裏にあられた際にはどうかご覧になってください。戦争の起きたとき、国籍、宗教、人種とは関係なく現地に駆けつけ、怪我をした人、病んだ人のために働く医師たちを応援したいと思っています。日本支部は新宿区にあります。少し

まとまるたびに支部に送らせて頂きたいと思っております。

今年から、毎号、写真を載せて行きたいと思っています。うまくいくでしょうか、こちらもどうぞよろしくお願い致します。この一年が、皆さまにとってよりいっそう幸多きものになりますよう、こころよりお祈りもうしあげます。

平成19年1月1日

大黒

